

1. 実施機関

国立大学法人京都大学

2. 企画名

科学体系と創造性がクロスする知的卓越人材育成プログラム（略称 ELCAS）

3. 総合評価コメント

広範囲の教育委員会の連携と一般公募の工夫で多くの優れた能力・資質を有する受講生を集めることができている。独自の ELCAS ルーブリックを作成し、受講生の一次選抜基準として用いるのみならず、ELCAS 開始時から専修コースの修了段階まで、受講生にとって目標の提示と達成度合いを測る一貫した評価尺度として機能させることを志向していることは評価できる。

しかしながら、「育てたい人材像」につながる能力の一つである「創造先進的な尖りある高いイノベーション力」を育成する取組の姿勢・態勢について脆弱な面がうかがえる。専修コースや国際クラスを取組が出遅れており、個に対応したきめ細やかなプログラムの更なる開発が必要なことは自ら課題として表明している通りである。このことが、数値目標についても、国際学会での研究発表実績 1 件、外国語論文の実績ゼロという現状に帰結している。また、プログラムでの指導と評価の軸となる ELCAS ルーブリックについても、「創造先進的な尖りある高いイノベーション力」を育てることに十分対応したものとなっているか、その運用と活用の方針を含めて見直し、改善を進める必要がある。今後、目標の確実な達成に向け、具体的な諸施策を実施していくことを求める。